特1000
29

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

御當家年歴記聞

巻下

下巻年号目次

正徳	享保	元文	寛保	嘉永
	寛延	寛政	享和	
	宝暦	文化	文政	
	明和	文政	天保	
	安永	天明	寛政	
	天明	寛政	天保	
	寛政	享和	弘化	
	享和	文化	安政	
	文化	文政	万延	
	文政	天保	文久	
	天保	弘化	元治	
	弘化	嘉永	慶応	
	嘉永	安政	明治	
	安政	万延		
	万延	文久		
	文久	元治		
	元治	慶応		
	慶応	明治		

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

中御門帝		
宝永七庚寅	正徳元辛卯	

有文諱尺好お井ち面　二ノ林大学ノ亜吋経ヲ嫁
有吉ノ芝口ノ邸遠
罰ノ為武家諸法度
止ラル　ノ法令十七ヶ条頒布
有吉ノ水戸桜中納言ヲ招
巻数上　有吉ノ大聖寺ノ条信
年四十ノ志ノ遠主　定日乾金通用ニ米判金ヲ
有吉モ日光山ニ巡ノ使
ノ条例ニ礼典五百十巻附ス三
有吉東吉田山ニ
十二月十ノ日ノ書誌ヲ以テ改格。

有吉ノ席吉君セ　十月紀伊ニ使登城　延年仁義
山ノ文庫ヲ造ラル今西ノ丸ノ文庫ト称ス云
多ヘニ伯ヲラル　延年十二月十日ノ
大納言。　有章公正二位将

宝永六己丑	文昭公

ノ諱ハ　家宣ニ
甲府ノ邸ニ於テ出生ス
ノ長女　有吉ノ西丸ニ
保ノ後見　大将通有ヲ止ラル
常憲ニノノ法ヲ中ノ
如キ害石ノ事ニ
ヨリ多人ヲ殺ル　有吉ノ上ノ
ノ諱ハ　家宣ニ　大猷ニノ二男清揚ニノ嫡子ノ母ヲ
甲府ノ邸ニ於テ出生ス　有吉ノ西丸ニ
ノ長女　有吉ノ西丸ニ
保ノ後見　大将通有ヲ止ラル
常憲ニノノ法ヲ中ノ
如キ害石ノ事ニ
ヨリ多人ヲ殺ル　有吉ノ上ノ
ノ諱ハ　家宣ニ　大猷ニノ二男清揚ニノ嫡子ノ母ヲ
甲府ノ邸ニ於テ出生ス　有吉ノ西丸ニ
ノ長女　有吉ノ西丸ニ
保ノ後見　大将通有ヲ止ラル
常憲ニノノ法ヲ中ノ
如キ害石ノ事ニ
ヨリ多人ヲ殺ル　有吉ノ上ノ
ノ諱ハ　家宣ニ　大猷ニノ二男清揚ニノ嫡子ノ母ヲ
甲府ノ邸ニ於テ出生ス　有吉ノ西丸ニ
ノ長女　有吉ノ西丸ニ
保ノ後見　大将通有ヲ止ラル
常憲ニノノ法ヲ中ノ
如キ害石ノ事ニ
ヨリ多人ヲ殺ル　有吉ノ上ノ

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

正徳　三年　癸巳

有章公

皇女八千宮　誕生　有章公ト称シ奉ル　母ハ従三位藤原朝子ト申ス人ニテ権大納言藤原経孝卿ノ女ナリ　後ニ典侍ニ進ム

正徳　四年　甲午

五月十四日　金沢ノ製錫古ヲ京師ニ来ル　福ノ商船ニ命ジテ之ヲ運漕セシム

十月廿日　金沢ノ製錫古ヲ京師ニ来ル　福ノ商船ニ命ジテ之ヲ運漕セシム

正徳　五年　乙未

四月七日　対馬ノ宗氏ヨリ朝鮮ノ交易ノ事ニヨリ改正ノ書契百年ノ禁ヲ解キ旧ニ復スルノ請アリ　幕府之ヲ許ス

十月廿日　対馬ノ宗氏ヨリ朝鮮ノ交易ノ事ニヨリ改正ノ書契百年ノ禁ヲ解キ旧ニ復スルノ請アリ　幕府之ヲ許ス

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

享保 元 丙申
祝王姫君 ㋕誕生 ㋕宗之 ㋕紀伊中納言 ㋕養仁 ㋕四男 ㋕世 ㋕将軍 ㋕御名 ㋕利清女 ㋕母 ㋕養仁 ㋕伏見 ㋕養女
本城ニ移ル 八月十日ニ ㋕江戸 ㋕於大納言 ㋕御宅 ㋕移ル
内大臣 ㋕青山 ㋕幸督 ㋕及法印 ㋕祐筆 ㋕法印 ㋕宣下
小笠原右近将監ノ手勢 ㋕警固 ㋕洪水 ㋕青侍 ㋕玉巡 ㋕使 ㋕ヲ
惇信公 ㋕御 ㋕仲秋 ㋕御入城 ㋕ヲ 八月廿九日 ㋕ニ

享保 二 丁酉
三月十日ニ ㋕戸太夫 三月十日ニ ㋕武家伝奏 ㋕勅使
㋕来ル ㋕ヲ ㋕新金出来 乾字金ト ㋕引替 ㋕宣下 ㋕院
大風田畑損亡民ヲ ㋕破損 九月廿日 ㋕松平右京亮 ㋕輝貞
㋕例 ㋕通人 再任

享保 三 戊戌
三月十日ニ ㋕戸田ニオヲ ㋕退身 ㋕物ヲリ 四月廿日 ㋕吟味 ㋕承番 ㋕仰
新刻悔窩文集十冊ヲ ㋕献ス 七月廿日 ㋕評定 ㋕ヲ ㋕経済
毎月十ヲヨ弐日トス 九月十日 ㋕小笠原 ㋕大 ㋕ヲ ㋕お ㋕ヲ
御三家一位百四君ノ手ヲ ㋕経ス

享保 四 己亥
三月十日ニ ㋕保三君七 十ヲ ㋕伊勢 ㋕無事 ㋕勤 ㋕益 ㋕其家 ㋕法礼
ヲ馬ノ手 ㋕為 十七巻 ㋕献上 六月廿日 ㋕高 ㋕姫 ㋕小書 ㋕法 ㋕ヲ
ル 十月 ㋕紅 ㋕聘使 ㋕登 ㋕ヲ ㋕ヲ ㋕ヲ ㋕ヲ
㋕ル。 十月 ㋕倉 ㋕事 ㋕備 ㋕尺

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

享保 五 庚子

二月廿日朝未刻ヨリ翌酉刻ニ至リ神田佐久間町ヨリ出火ス 此時風烈シク神田橋外ニ至リ鎮火ス 此火ニテ町屋武家屋敷ニ寺社ヲ合セ凡千百廿四町焼失ス 此内ニ大名小路ノ大名屋敷十一家アリ 其外寺社ハ数ヲ知ラス 此時ニ当リ江戸大火ノ事ヲ記シタル書物ヲ焼失セシム 三月廿六日

上 十月廿六日ヨリ水戸中納言宗堯卿ニ命シテ江戸大火ノ事ヲ記シ上ラシム 焼失上地 大猷院殿廟焼セラル 是年ヨリ先キ諸船ヲシテ江戸ニ来ラシムル法ヲ変化シ中ニ永ク者ハ四年ニ一度ノ内西洋人ノ書ヲ携フヘキヲ許ス 此年三月九日江戸大火ニ於テ三度ノ内ノ二度ヲ減ス 上聞

享保 六 辛丑

三月廿日ヨリ神田佐久間町ヨリ出火ス 此火ニテ町屋武家屋敷ニ寺社ヲ合セ凡千百廿四町ヲ焼ク 此火ニテ焼失スヘキ分ヲ減ス 上聞

百廿四町ヲ進ス 閏十月廿九日ヨリ一ヶ年ノ間諸国ノ大小名ニ命シテ江戸ノ大火ニ焼失セシ地ヲ開カシム 十一月廿日ヨリ普請作事ヲ始ム 十一月廿日ヨリ普請作事ヲ禁制ス 是年ヨリ先キ一ヶ年ノ間諸国ノ大小名ニ命シテ江戸ノ大火ニ焼失セシ地ヲ開カシ

享保 甲辰
九
十
乙巳

青唐ヨリ李亦貢馬ヲ献ス
ヲ賜フ　李ヨリ貢ス
日下田幸左
井美知ヨリ来著ス衣米ノ事ヲ奪ヒ
七騎大地震ヲ救ヒ千余戸ヲ
是年胃カ

青大火　其ヨリ焼失
青ヨリ甲冑弊毛ヲ献ス　カラサル者ヲ奏入
青亭　八昭ニ十二回ヲ
是日七騎五余唐私施ス
報ニ及ヲ賜フ。

青大火
カラサル者ヲ奏入
十月七日ヨリ雨始
亭之真馬集一幼ヨリ上ル者

享保 丙午
十一
丁未

青大ナル誠ヲ以テ山林原大風雨泥水涌出平地大
河ノ如ク人民牛馬多溺死
青唐私主愈牧吉採参紹略ヲ
悼信ノ神為。

青ヨリ萩生焉ヲ命ヲ
黄ノ真記一帖冷泉中納言
カラサル女房ヲ
下田師古ニ授ケセシメラル
記ニ永記ヲ乱ル百余ノ
物ヲ

享保	三月廿七日
己酉	上天象入陪
十四	是年筑後國ヲ以テ馬吉為ル領主久留米山中
享保	三月廿四日ヨリ雨水ノ為メ七條ノ堤防所々ヲ決壊ス
十三	是月荻生徂徠ニ命シテ補遺ヲ作ラシム
戊申	水
	著ス処ノ七経孟子考文ヲ校訂ス
	三月廿四日ヨリ雨水ノ為メ七條ノ堤防所々ヲ決壊ス
享保	三月廿六日ヨリ雨水ノ為メ七條ノ堤防所々ヲ決壊ス
十七	四月廿日ヨリ雨水ノ為メ七條ノ堤防所々ヲ決壊ス
庚戌	四月廿日ヨリ雨水ノ為メ七條ノ堤防所々ヲ決壊ス
享保	一向俠ノ為メ本所深川ニ於テ打毀ノ者蜂起ス
十六	水ノ為メ本所深川ニ於テ打毀ノ者蜂起ス
辛亥	是年

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

壬子	享保十七	冒言ヲ休ス所ヲ淀ヲ出水宴ヲ宮ニ 十ヶ昭陳ヲ府 松平美濃守重能ヲ奥ニ赴ク久キニ逓世良 田米ヲ八納メラル 冒言ヲ 天文上皇崩ス 西園 寺後ニ実来ヲ相伝ス。
癸丑	享保十八	四月遠私義次第ニ中根某トテ校字差ニ訳ス処 ノ百等全ヲヲヲル 二月去年ヶ西国筑大飢饉餓 死ノ者十六万九ヶ九百余人ニ及ル町家ニハ救米男一人ニ 合女二人一合ノ割合

甲寅	享保十九	四月ヲ丹羽正伯訴訟ヲ以テ其等編集ニ依テ詰問ノ為ニ 捜索スヘキ旨仰出サル 二月十四日伊勢平家負傷 流ノヲ物四巻献上 三月四日中堂 仲成ヲ代ノ事ヘ 詰ヲヲヲ 冒言ヲ偽ヶ 堂中ヘ参内ヲ 献ノ礼義ヲ典 叡慮斜ナラサルヲヲ云ヶ 去ル秋 ヨリ洪水。
乙卯	享保二十	四月冒記簡本補正スヘキ旨仰ヲヲヲル 三月十四日 松平陸奥守宗村ヘ仙台ノ領ヲ 中山帝ヲ譲ヲ ヲ 冒言ヲ養女利根姫君 ヲ南ヲ祝儀ヲ献 五月十日天下ヲ一統ヲヲヲ 六月十日大風雨洪水ヲ 是月ヲ志摩行ノヲ制令

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

桜町帝	元文元	丙辰
	二	丁巳

三月仁孝一統望ノ者賀表ヲ奉ルヘキ旨町部
勅使ヲ行ハシム一年利生ノ
ラル　五月四日園大唐鉄本林大字ヲ補字進呈
セラル　六月二日本復紀纂園太夏按合ノ
事ヲ命セラル　時ニ六月ヲ閏トス
按合本五十七冊呈上ス

二月松平加賀守吉治参内ス
是月ヨリ陪膳ヲ羽二ヲ以テ候
四月十日　中山ノ上皇尚歯ノ
御賀井伊掃部頭ヘ
十三年。

桜町帝	元文三	戊午
	四	己未

二月ヨリ更ニ修正ヲ命ノ流鏑馬ノ記ヲ作ラシム
三月時服ヲ一領ヲ小堂
東納戸ヨリ台記玉海玉葉ノ別本ヲ出サレ
ル文庫ヨリ本ト校合セシメラル　五月十日
修載タリ　二条家ヨリ
ルヘカラス。

二月十日辰刻中納言宗基卿
ヨ頭ヲ警衛修ヲラル
ル　六月十六日大坂大雨人多死。

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

元文	五月廿五日将軍有テ	勅使吟味衆室鳩巣大納言陽田川橋
	説ノ餐応答ニテ	二月廿六日ノ
五	風雨洪水ニテ柔大橋破損	七月十五日夜大
	活字版群書治要二部大奥一部	カラノ紅葉山ノ蔵書ノ
庚申	青木文蔵甲斐守ヘ	巡リ申渡田記木捜索スヘキ
	各甲信二カ所ノ代官ヘ達ス	

寛保	二月本村陸奥守ヨリ敷著述武鑑編年集成九十二巻ヲ	
	献上ス又著ス処ノ四戦記ヲ篠ノ陣ヨリ上ル 是月	
元	紀近ノ内裏式新剣ノ神禁セラル 冒頭ニ吉木文蔵ニ	
	武家名中ノ伯母古記ヲ採進スヘキ由 今セラル 八月七	
辛酉	日 仲哲任右大臣 十月	
	陽ノ云々依後信捜納	
	言。	

寛保	七月大坂ノ陸奥記編纂ノ	
	省ヨリ至ル戦国大風雨洪水	
二	出汲伏見洪水 十月実来	
	修大名十家 是年ノ仕	
壬戌	多シ。	

寛保	七月十四日軌夫用捜合作ラル 七月深川新築ノ	
	為天工定ノ日ヲ文庫ニ於テ儒官ヘラル 八月	
三	林大学頭桂山ニ命ス 今ヨリ東ノ編集記録十冊ヲ上	
	十月紫宸殿南庭古進捕捨 是月上旬ノ台毎	
癸亥	秋珍果西方ニ現ス上天星ノ如シ或ハ彩星ト云。	

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

延享　元　甲子

九月、令ㇾ刪府之亀傳文献通考等ヲ編次セシメ筆品字筆百川学海ヲ抄出サル。十月、令ㇾ修方砌積ノ製ヲ定メ出シ考ヘキヲ令ス。常陸田沢ノ碑ヲ立ル事ヲ許ス。是年二月、吾野郡久ヲ採ス。

延享　二　乙丑

惇信公　御名ハ徳川宗翰、紀伊中納言治貞ノ第四子ニシテ、母ハ側室岡本氏、寛保元年辛酉十一月廿日ヲ以テ生ル。

九月、令ㇾ本城ニ移ル。十月、令ㇾ御目見ヲ許ス。宝暦二年壬申十月、従五位下侍従ニ叙任シ、同年十二月、右近衛権少将ニ転ス。

十月廿日、令ㇾ巡見使ヲ従ヘ、出羽ノ大山ヨリ秋田ヘ越ル。

十月十日、令ㇾ陪従ヲ以テ山王祭ヲ奏ス。

延享　三　丙寅

二月廿日、令ㇾ成田山ニ詣ス。三月廿六日、令ㇾ信濃善光寺ニ詣ス。

延享出入記云

十月廿日、令ㇾ御目見ヲ許ス。

按豊宗侯年譜ノ記載ヲ利用シテ作ル。

十月廿二日、令ㇾ西川忠次ヲシテ補屋ヲ営ム。

桃園帝　延享　四　丁卯

二月廿九日、令ㇾ参内ス。

三月廿六日、令ㇾ参内ス。

四月廿日、令ㇾ従五位上ニ叙任ス。

五月、令ㇾ参内ス。

六月、令ㇾ桜町帝ヲ追悼シ奉ル為メ、法華経ヲ書写シ、之ヲ供養シ奉ル。

七月、令ㇾ修理大夫ニ転ス。

八月、令ㇾ参内ス。

桃園帝ノ命ニ依リ、石清水ニ詣ス。

九月、令ㇾ参内ス。

是年、有徳公ノ年忌ニ当リ、増上寺ニ詣ス。

十月、令ㇾ参内ス。

是年ニ於テ、歌ヲ詠ス。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

寛延 元 戊辰

三月一日鮮ノ使聘ヲ江城ニ乱 是年朝鮮人来ル 真文金浩外ト云人体ニテ来ル 尚王ヨリノ額ヲ呈ス。

寛延 二 己巳

三月廿九日誤テ金西洋ヲ大魚ヲ得其形河豚ノ如シ 長九尺余背ニ棘八尺位ニ海方魚ト称ス 七月廿日朝ノ暁 路次大火 是月丹後但馬大風。

寛延 三 庚午

閏ヨリ 大猷公百年忌ニ当ル 御路次日光道中諸侯ニ暇ヲ賜ル 是ノ 楊町上皇崩御 省ヨリ洛中大風数十ケ所ニ火ヲ発シ焼 九月洛陽四方諸山ヨリ火炎吹出ル如シ 是年閏月ヨリ 洛内ニ疫病流行ス 死者凡

宝暦 元 辛未

二月廿九日京都大地震 山ヨリ赤雲降ル 閏ヨリ江戸大雷人馬多損ス 諸国大地震而刻ヲ世刻ト云 一万六千余人 是年九月ヨリ 洛内ニ疫病流行ス 死者凡

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

宝暦	二	壬申
宝暦	三	癸酉

三月陽気社地ヲ突鳥居ヨリ池ノ端ヘ
地ノ築ヲ川ヲ掃　十月築陰川ヨリ下ヲ二丈下ル西ノ突
四尺余表ヲ七尺余　十月高麗琉球使ヲ城ニ
引ク。

四月ニ至リ内一統麻疹流行　十月高麗
御土ヨリ三位秦邦彦ヲ招ク小路破ニ於テ幸喪測ヲ推
歩記或ヲ行ル此ノ年天文方渋川景平西川忠次帝上
京　十月千石以下ノ禄ヲ第人ニ於テ借金修ヲシム。

宝暦	四	甲戌
宝暦	五	乙亥

六月谷中ニ等ニ善賢山法住寺創ル俗ニ新幡随意院
ト云　十月新暦頒行宝暦ヨヨミト云。

二月江戸加納六万ヲ石出火ヲ仕ヲ地ニ依テ陽振修ヲシム
陽ノ　六月十ヲ千石以下四年ノ拝借金年々返納
致スヘキヲ　九月肥後ヲ洪水　七月下宗対馬ヲ一郡疫
中困究ニ依テ加力金乳ノ通高年々三ヶ年ノ百金一万
ヲ与ヲ大風雨ニ破損。

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

宝暦　六　丙子

三月七日夕大火　三月廿六日大地震
二出火　七月晦日迄大地震　九月廿三日上方大風雨
伏見迄洪水　十月晦日山城宇治川木津川大坂迄洪水
十月廿二日八代洲河崎ゟ火起リ深川迄焼失　七ツ半時
山々火出　麻布芝迄焼失　浜町ゟ出火千代姫君生
是年三月廿三日

宝暦　七　丁丑

冬下旬東海道箱根小田原洪水　九月晦日信濃山ノ夫
芝生ゟ出火二て　十二ヶ所焼失　十二ヶ所ゟ六孫王経基八百年忌ニ当リ清和源氏ノ者方々
ゟ参詣有之候ニ付、金壱万石以上以下志次第助力差出ス
キ旨仰渡ラル。

宝暦　八　戊寅

九月廿四日ゟ廿六日迄大風雨大坂毎年ニ洪水
森一件ニ依テ　当年ゟ御普請御免
年ゟ元ノ如ク御普請有之候ニ付、遍塞若
収大月ゟ出来御普請仕候ニ付、御役
金壱式ノ内弐ツ半ヲ不残ニ依テ陸奥八幡二方ノ
八石石放タレ両如大坂ニ大坂ニ
ゟ之ニ

宝暦　九　己卯

十月廿四日ゟ来月大風雨大雨　十月廿四日ゟ来月改精勤
ノ者ニ賞金ヲ下サル　是年
ヲ　四年二月罪ニ付、山吹ニ陸ヲ遣
賀　罪ニ付、辞職。　三月廿九日ゟ廿五日迄

後桜町帝		
寛延	宝暦	宝暦
庚午	十三	十三
	癸未	壬午

後桜町帝		
寛延	宝暦	宝暦
庚午	十三	十三
	癸未	壬午

九月ヨリ大坂安治川口木津川口迄永大破損　十月
京屋町名古屋大火　是月神田徳久ヶ町吉田治兵衛
鮮人参売ニ命セラル　十二月七日　後桜町帝ヲ位ニ
即ケ奉ル。

二月十六日若狭大風宇治ヨリ西辺大火　六月七日大坂大雨
七月ヨリ　桃園帝崩御　十月七日孝恭公薨
十二月九日　負次帝君ヲ　明年山王ヨリ丸迄川今年
立帝ニ即行アリ。

後明公		
寛延	宝暦	宝暦
庚辰	十	十
	己卯	己巳

後明公　名ハ偉ハ　幼名ハ梅渓　惇信公ノ嫡男ニシテ母ハ梅渓
王姫君　二月ヨリ　盛姫君ノ　六月ヨリ　御中納言通條卿ノ女　叶豊公ニ嫁シ給ヒシ右大将
ヨリ出火、品川ニ至ル　江戸桜辺一円品川焼失　廿五日ヨリ津田旅籠町ヨリ出火ニ桜
田　五月十九日本城ニ移御。　廿六日芝神明ヨリ出火芝田町辺一

二月廿六日武家諸法度　三月廿四日松平大炊頭西南ノ
七十余艘破損　六月ヨリ　三ノ丸ノ孝姫君ヲ　十月七日
万石已上　御集市。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

甲申	明和 元	二月十七日勅使七條ノ弘解聘使七條ノ弘 十月十七日勅ノ山田大火 延年二月年ノ炎内火 災布ヲ工夫シ製シ出シ之ヲ歌ニ作リ 表ニ出ル 十月 弘解稼人参賣ル 仲冬ニ出ル。
乙酉	明和 二	四月七日走山ニ於テ 東照宮百年祭田神輿 奉行自宮等ノ法ヲ勤ル人江戸ニ集ル 雷伝 山城 高一舞楽 上演 九月當中ニ於テ 三男遠多毛天孝ノ頒ニ参ル 十月六日伊勢代 伊勢ノ大風雨 四月六日ノ大風雨 四月六日ノ大風雨。

丙戌	明和 三	四月六日ノ大風雨ノ時軽者奉迎大垂大地震大火人馬多損 四月六日ノ水戸大火 十月六日松平ノ山形号名ヲ出ル者仰 制度 十月六日江戸洪水 五大旱魃 九月六日神田祭礼ヲ行止水戸ノ山供 方参礼ノ者ト唱ル事。
丁亥	明和 四	四月朔日ノ石大火 四月六日ノ山城洪水人馬多損 四月六日山城大武蔵井ノ屋形 織田美濃ノ信邦藝兵仕ル事ニ。

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

昭和 己丑 六

二月大坂堂根辺ニ於テ新地大火山ノ多分ヲ焼ク近来洪水。

是月二月ニ都テ雨沢通用 二月十日ヨリ降雨

二月上旬諸国風邪流行 十日ヨリ近来ニ無キ浄土真宗ノ怪シキ法儀ヨリ起リシヨリ

ソノ後ト云者ヲ刑セラル 二月大師流ノ村百姓大勢

あら砂糖ヲ製シ込ム

二月上旬諸国風邪流行 十日ヨリ近来ニ無キ浄土真宗ノ怪シキ法儀ヨリ起リシヨリ

ソノ後ト云者ヲ刑セラル 二月大師流ノ村百姓大勢

あら砂糖ヲ製シ込ム

昭和 庚寅 七

二月上旬ヨリ雨天打続キ 十日ヨリ晴天ニ相成

近百日ニ余リ雨天大旱魃ニ付 諸国大凶作

ニテ候ヘ共名古屋ハ大火 二月中旬ヨリ大神宮山麓系 七ツ大

昭和 辛卯 八

二月廿七日大火 二月中旬ヨリ大神宮山麓系 七ツ大

初カ成川洪水ニ付 諸国大凶作 二月廿日大雷雨

初大山四ツ ヒビ 戸地震 二月廿日ニ

是年二月茶研堀埋立地成ル。

後桃園帝

昭和 辛卯 八

二月廿七日大火 二月中旬ヨリ大神宮山麓系 七ツ大

初カ成川洪水ニ付 諸国大凶作 二月廿日大雷雨

初大山四ツ ヒビ 戸地震 二月廿日ニ

是年二月茶研堀埋立地成ル。

昭和 庚寅 七

二月上旬ヨリ雨天打続キ 十日ヨリ晴天ニ相成

近百日ニ余リ雨天大旱魃ニ付 諸国大凶作

ニテ候ヘ共名古屋ハ大火 二月中旬ヨリ大神宮山麓系

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

安永	元	壬辰
二月廿八日天火神人良三死人拾人余出火四軒本仁蔵坂人死亡		
三月廿日大火午上刻目黒行人坂ゟ出火芝愛宕下迄類焼千石以下御旗本屋敷数多町家ハ不及申寺社数多焼失ノ場所多シ		
四月廿八日夜病死	四月廿日迄諸ノ公事訴訟其上ニ而作事被差留候旨大火ニ付当分ノ儀ニ候	

安永	二	癸巳
二月廿日老中被仰出候者向後ハ諸ノ公事訴訟ハ不及申上ニ及ハス其時ノ奉行ニ而取捌可申候		
水七月ゟ八月迄大風雨洪水度々有之		
七月ゟ八月迄大風雨洪水度々有之		
聖堂釈奠ニ而御講釈		

安永	三	甲午
二月廿日大風雨辛未ゟ翌酉ノ刻迄ニ而大木倒家等多ク有之		
安永年中ニ諸国ニ而大風雨洪水度々有之		
九月ゟ十月迄大雨洪水ニ而諸国ニ而田畑荒ス		
是年三月十日		
文恭公御誕生		
山王ヘ御参詣		

安永	四	乙未
二月廿日小雪降ル翌廿一日馬所仮役被仰付候		
四月		
朔日	亀戸町火消方ノ儀ニ付御尋	
亀戸菊面ニ而二月ニ至迄花開ク		
漂着	六月初旬洪水	志州ゟ羽倉外記ニ而琉球人

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

安永	五	丙申
安永	六	丁酉

胃 晝ノ社条 是月ノ六月ニ至テ諸國麻疹流行
月ノ七ツ小雪詰金ヲ集ノ免後夜荘ニ命従ヒ納ヘキ
月ノ十月至年未ニ至ノ大寒 是年月ノ 冬
ニノ徐仙 月柳詰ヲ名ノ一尾ニ三女ヲ生ス。

七月ノ洪水下総下幡洪水 十月ノ甲府牙近山久
遠ノ炎焼 十月ノ田安ノ館焼失 十九ノ大坂大火
山杜魚猟ヲヒおゐ小田原ノ侍中ノ大魚ヲル 其丈四五十尺余
八九ノ背中ニ蛎ノ殻ヲ名ヲメウカサメト云イカヒ大
ヲモ霞スト云

安永	七	戊戌
安永	八	己亥

月ノ十ノ江戸俄ニ飛瓜ヲ伝馬町出火 胃ノ ノ伊豆大島
焼大島亦ヲ其ニ年ノ ヲ進ノ代官江川右衛門ノ
申上 月ノ大坂大雨ノ久ル処ニ度ヲ越ノ大洪水
京ヲ大雨ノ月ノ秋洪水 十月ノ尾州名古
屋大火。

月ノ胃ノ 家基ノ薨ヲ悲ノ人ノ惜ヲル 事前代未
ノ 胃ノ二日京大坂江戸大寒小雪ヲ及ヒ翌ノ辺大雪 二
江戸大雪 胃ノ七月ニ至テ梅雨ノ洪水 八月末迄ニ東
筋ノ至洪水 十ノ日光山大風雨 九月ノ十ノ雪ヲ大火。
十月ノ 後桃園帝崩御。

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

光格天皇

安永	九	庚子	三月廿日ヨリ大寒日ヨリ時ニ雨 廿五日朝夫郡唐ヶ松漂着ノ松ヲ数ニ四十万人数七十人ヲ陸奥ヘ送進 廿四日 光格天皇御即位
天明	元	辛丑	二月廿日ヨリ大火 三月廿六日 禁裡御即位被遊雖 廿七日平信七信忠ヲ二百年忌 大木多折 廿晦日大風 七月廿六日ヨリ大坂大風ニ而 西城ヘ移御アリ 十月廿六日ヨリ大坂大火

天明	二	壬寅	二月廿四日ヨリ大風雨 七日ヨリ養 女種姫君紀伊大納言治宗江ヘ御祝 廿日ヨリ大火 廿晦日ヨリ天文 所々山川崩 諸所ニ松坂大風 洪水 廿晦日ヨリ加茂川洪水 七月廿四日ヨリ江戸大地震ニ 御小田原辺ニ至ル皆根山崩ル 生支干共ニ高サ紀美。 十月十六日 年号ヲ改
天明	三	癸卯	二月廿日ヨリ大地震 七日ヨリ肥前ヶ島ニ大火ニ而家及ビ諸 火災多ク戌亥寅申ノ如ク毎時雨 廿日ヨリ雷 東及ビ諸国洪水米一石代百文ニ及ビ諸物ニ 七月廿日ヨリ七日ニ至ル信州浅間山焼流失村数三千ヶ村余 家数凡四千軒人数凡三万五千余牛馬数ヲ知ラズ。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

甲辰	天保 四	四月ヨリ青山麻布辺大火 去ル 二月ニ 十四日丹波亀山大火 三月ヨリ彼地ニ善政ヲ改言當年ニ於テ乱イ 胥揚ニ 打テ切捨ル旨ニ付諸人真蒼ニ群集スト云 松平對馬
乙巳	天保 五	三月ヨリ大坂大火 三月末内ヨリ諸所ニ罹災 三月ヨリ大坂大雨 四月末内ヨリ琉球ヨリ山年ニ付松平薩摩守 米一万俵金一万両拝借 是ハ前年秋彼地大塩中斎乱妨ノ節類焼ノ分ニ 四月ヨリ大雨洪水 九月ヨリ大雨
丙午	天保 六	三月ヨリ日蝕皆既 十六ヶ宝蓮院殿薨去 三月ヨリ江戸処々大火 三月ヨリ大雨洪水 三月ヨリ江戸表大雨 六月ヨリ内山伏ヶ岳ヨリ水出テ百姓町人ノ屋敷流失ス 是年十月ヨリ風水損半毛ニ付御救米被下 諸国ニ於テ人数餓死ス
丁未	天保 七	**文恭公** 諱ハ 家斉 ノ第十一男 大坂住吉ノ養女松平薩摩守ノ養女 一橋大納言治済卿ノ嫡男 年廿九ニテ 二月右大将ニ任ス 十月ヨリ 大坂江戸町人悉ク米屋ヲ打壊ス 三月ヨリ 諸国ニ於テ大水

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

天明 八 戊申

去年九月成原諸法会 法要奥瑜祇之式而 信受講
尺の吹味 十月山王二の午後
寸松本御堂を通塞小書院
汎 女院の所及 二条の城焼
社二百六余寸院百六八塔七ツ仏町数三千百余丁家数六万三
千余土蔵八千百余焼失時刻 子の下刻より申の下刻迄
凡八金子ヲ焼ノ。

寛政 元 己酉

去年九月の仏向の築地の入用五万石ノ上 秋納仰出サル
十月六日吹上ニ於テ二番試許 上覧
出仕 今年二月学の始礼
大水丹波ニ而堤防洪水 七月六日夜四半刻
其辺仮へ引越へキ旨 十二月廿日迄の成の通筋人通シ
方の改ニ。

寛政 二 庚戌

四月五、六ツ仏前込大的場仮付ラレ有の中候 六ツ女ノ衣
其翌廿日より
大女院崩御 六日大坂発 着京
仏説の時彼ヲ場ノ今年ノ是迄阿蒙院二被ノ仏一被ノ
成赤羽モ百万貫目ノ仏ヲ受目ニ城ニ毎年仁寿系上モ五
年目トナル 十二月琉球使者 城の礼。

寛政 三 辛亥

去年十月仁戸地震数度
ノ新規召出サレル者 他人養子モ禁ラサル旨
金座役川下の仕法 十両ノ俸
胃ノ病場ヲ退ヲ称 六月ノ大判
吳玉松キ高久ノ事ノ
有ノ学医学館の改ニ。

ガラス使用

寛政　四　壬子

閏二月十七日関東ノ郡ノ動定ヨリ戸方ノ改正ヲ令ス吹上ニ於テ武術上覧　是月肥前ノ領内ニ通流人多ク配国中騒動通設ヲ著スヨリ依テ塾兵修ヲ令ス。

寛政　五　癸丑

二月十七日中山ノ大納言毛利治定ヲ以テ松平越中守ヲ以テ下田ノ浦交迎ノ使ヲ修ス。

四月十四日　高ニ市ノ祠ヲ吹上ニ　仲成魯西亜ヨリ幸安神吉　仲秋　是年春ノ白子船沈国洪水。

寛政　六　甲寅

四月十七日ニ戸大火　桃町ヨリ芝新堤ニ戸大地ニ依　是月杜ヲ以テ之ヲ焼ク　十月ヨリ子刻ニ至テ元ノ如ク指杖ヲ用ル。

寛政　七　乙卯

二月ヨリ小金原ノ廉狩　四月十七日ヨリ松平越中守能登ヨリ　六月廿五日ニ戸大雷数十ヶ所ニ落ル。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

寛政 八 丙辰

三月十六日敦之亟君ヲ使ヲ以テ是年三月白牛酪麦仏ノ事ヲ令シ給フ。

寛政 九 丁巳

三月江戸大雷雨処々ニ災ス 九月十六日改暦ノ事ヲ令シ給フ 是年白川楽輯ル処ノ集古十種板成ル 幸四人ノ扶持ヲ令セラル。

寛政 十 戊午

三月晦日豊三命君ヲ主佐ノ改 五月朝ノ品川海上ニ於テ鰊魚上ル 五月廿四日ノ事ヲ吟味致ス処ノ事ヲ記ス 其地及蝦夷ヲ巡察セシメラル 是年改暦領行寛改暦ト号。

寛政 十一 己未

春松前領分東蝦夷地箱館ヨリ奥地ノ地ヲ開地ニ召上ラレ若狭守ヘ給地トシテ弐拾万石ノ内ヲ以テ久喜領五千石ヲ賜ハル 是時ノ事ヲ記ス 令シ給フ処ヲ以テ松前ヨリ東蝦夷ノ地ヲ開キ夷人撫育魚猟交易ヲ令シ給フ処ヲ記ス。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

寛政　十一　庚申

四月廿　大蔵ニ百五十冊ヲ是　閏四月峯姫君ヲ
廿九　有徳ニ五十回ヲ忌　八月廿九日宇治松ニ編集令
セラレシ孝経孫五十巻成ル　十二月校ガ畢ヲ奏ス
是年ノ富士山ニ女人ノ登山ヲ許サル　是年人数ヲ配テ東
蝦夷地エトロフホノ島ニヲサル。

享和　元　辛酉

春ノ小納戸ニ川筑前守命ヲ諭大ノ内善十年政令ヲ布カニ至リ蝦夷巡視　四月廿九日ヲ峯姫君ヲ
一揆起ル奥羽ニ於ケル大強勅仏峯采守ホノ人数ヲ出シ之ヲ捉ブ
ヲル　七月ニ至リ之ヲ散　九月九日　蔦氏君ヲ　十月
ヲ令ヲ辰刻日輪ニ三暈現ス　是年十月校保已一日ヲ
庚紀略一冊二巻校刻。

享和　二　壬戌

二月ヨリ羽ヲ安房ヲ戸川筑前守ヲ蝦夷地ヲリヲヲ支
配吟味ス、仕ヲル　二月ヨリ四月ニ至リ諸国風部流リ
貧民ヲ救トノ米津ヲ賜フ　六月ヲ舒姫君ヲ　六月森
田洪水　七月ヨリ久留米藩ヨリ松ヲ平吹郎ヲ方結忌役
述著作ヲ名　ヲ蝦夷地ヲリト改ノラル。

享和　三　癸亥

閏四月珍ガ九条村白雉出ル　四月ヨリ六月ニ至リ麻
疹流行　八月ヨリ明ヲ仲ヲ迄大ニ山焼
ヲ江戸灰降　ヲ峯姫君ヲ

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

文化	元	甲子
三月九日ヨリ八度所々ニ雨粒ノ赤キ水ヲ実ニ灑ス仰テ之ヲ視ルニ大ナル者ハ径寸ニ下ラス小ナル者ハ千万ヲ以テ数フヘシ其ノ状ハ墨ヲ以テ点ヲ画ノ如シ		
三月廿日ヨリ肥田豊後守ヲ以テ使ヲ朝鮮ニ遣ス		
五月十日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
六月十八日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
七月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
八月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
九月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十一月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十二月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		

文化	二	乙丑
三月七日ヨリ肥田豊後守ヲ以テ使ヲ朝鮮ニ遣ス		
五月十日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
六月十八日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
七月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
八月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
九月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十一月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十二月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		

文化	三	丙寅
三月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
五月十日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
六月十八日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
七月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
八月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
九月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十一月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十二月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		

文化	四	丁卯
三月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
五月十日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
六月十八日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
七月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
八月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
九月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十一月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		
十二月廿日ヨリ雷雨ニ交ヘテ雹ヲ降ス大ナル者ハ径寸ニ下ラス		

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

文化	五	戊辰
文化	六	己巳

三月会津城下ニ而仙台四千八百余人蝦夷ニ発向 三月
会津城又発向 翌未ニ年新鮮本郷ニ着陣 七ツ
戸川筑前守ニ被仰付之 九ツ浦ゟ岩木石之巻ニ陣所取
井上大学ニ命セラル海岸ニ大筒臺場ニ五ツ 六月ニ
戸及近国ニ洪水 閏六月六日大風洪水 十七夜
出帆ニ而帰国ス 松平出羽守実切腹

三月三日福島ニ唐木漂流 二月晦日ニ月食ニ而朝
鮮訳官使庭ニ拝礼 十七日友松君ゟ 十八日ゟ三至
信州松本領安曇郡山中騒動 翌々廿日ゟ御三方石高ニ
相対ニ而御引下ケ 十七日会津養子御養子ニ五ツ
記進献其節一柳武井両人ニ而饗応下サル 二月廿七日
宝暦再延 七月十一日 文姫君ゟ

文化	七	庚午
文化	八	辛未

三月廿一日ゟ御城ニ而信玄五十回忌 十七日ゟ要ニ而君生
相ノ義ニ付ケ仕ル 九月四日ゟ
十七日ゟ御本通御座ニ而聖堂ニ而 九月朔日ゟ
本朝御講釈アリ 十七日ゟ孔子誕生ニ付
九品時位某院兵百田法印百七十。

三月廿一日ゟ御城ニ而信玄五十回忌 十七日ゟ要ニ而君生
相ノ義ニ付ケ仕ル 九月四日ゟ
十七日ゟ御本通御座ニ而聖堂ニ而 九月朔日ゟ
本朝御講釈アリ 十七日ゟ孔子誕生ニ付
九品時位某院兵百田法印百七十。

三月廿七日御城ニ而江戸大火 十七日ゟ類焼ニヨリ
紀伊殿ゟ金子二万両進セラル 九ツ六ツ
十七日ゟ武術上覧 九月十七日ゟ
御本丸ト奥ノ刀掛ケ御金黄金時計白銀ホヲ蒔
十月十七日天覚日記八十八巻 当九月御奥ノ大半紅
焉ニ巻物手伝ノ人ニ賜ル下サル 文昭百年ノ忌。

三月廿七日御城ニ而江戸大火 十七日ゟ類焼ニヨリ
紀伊殿ゟ金子二万両進セラル 九ツ六ツ
十七日ゟ武術上覧 九月十七日ゟ
御本丸ト奥ノ刀掛ケ御金黄金時計白銀ホヲ蒔
十月十七日天覚日記八十八巻 当九月御奥ノ大半紅
焉ニ巻物手伝ノ人ニ賜ル下サル 文昭百年ノ忌。

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用

文化 九 壬申	去年十月十六日二割増青坂大学南の合力米の改正ニ依テ陸奥信夫下伝馬五郡庄代官百姓惣代ニ而願出ル処ニ十月四日江戸及近在大地震ニ而家潰潰候ニ付願之通被仰渡候ニ付而ハ伊達様御領分ニ而ハ仙台掛ケ持之場所ニ而ハ無之候ニ付願之通被仰渡候。	今年二月廿六日ニ松平越中守信敬朝臣
文化 十 癸酉	二月廿六日ニ松田善左衛門 妻和歌君女 有章ニ嫁ス 妻ハ清原雅楽頭殿家来 九月廿七日ニ川崎筋ニ而成人ス 十月廿六日ニ阿蘇家ニ入ル 小象ヲ献ス 国ニ而養育ス 十月廿六日ニ松平出雲守殿江戸ニ而死ス 十月廿六日ニ大坂大和町人ニ而跡式名ニ而相続ス 十月廿六日ニ大坂ニ而死ス 十月廿六日ニ大坂ニ而死ス 十月廿六日ニ大坂ニ而死ス	二月廿六日ニ松田善左衛門 妻和歌君女 有章ニ嫁ス 妻ハ清原雅楽頭殿家来 九月廿七日ニ川崎筋ニ而成人ス 十月廿六日ニ阿蘇家ニ入ル 小象ヲ献ス 国ニ而養育ス 十月廿六日ニ松平出雲守殿江戸ニ而死ス 十月廿六日ニ大坂大和町人ニ而跡式名ニ而相続ス 十月廿六日ニ大坂ニ而死ス 十月廿六日ニ大坂ニ而死ス 十月廿六日ニ大坂ニ而死ス
文化 十一 甲戌	五月七日ニ大火ニ而芝山内焼失 六月六日ニ大火ニ而芝山内焼失 六月六日ニ大火ニ而芝山内焼失	五月七日ニ大火ニ而芝山内焼失 六月六日ニ大火ニ而芝山内焼失 六月六日ニ大火ニ而芝山内焼失
文化 十一 乙亥	有章ニ百俵ノ忌ノ永銭御加増ニ而二百俵ニ成 有章ニ百俵ノ忌ノ永銭御加増ニ而二百俵ニ成	有章ニ百俵ノ忌ノ永銭御加増ニ而二百俵ニ成 有章ニ百俵ノ忌ノ永銭御加増ニ而二百俵ニ成

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

文化十三 丙子

四月廿日 文恭公将任右大臣勤 尊体 命使六条参大納言山科参大納言 中山権大納言 中御門権大納言東使庭田中納言 柳原権中納言 倉宰相中将 冬定朝臣 万里小路前内大臣 正親町前内大臣 日野前大納言 広橋前大納言 烏丸前大納言 勧修寺前大納言 高野前大納言 竹内前大納言 清閑寺前大納言 葉室前大納言 柳原前大納言 高倉前大納言

文政	三	庚辰

二月十七日 一橋最樹ス古稀ノ賀祝ニ ル 二月廿八日 昨故中
納言安董宗尹卿ヲ改葬ノ為メ今日ノ未ノ刻ニ
今皇子ノ降誕 六月十七日 昨夜ヨリ雨降リ
流潮死多ク肥後筑後抔ハ
洪水 七月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 八月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 九月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十一月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 此年ハ閏月アリ

文政	四	辛巳

正月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 三月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 四月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 五月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 六月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 七月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 八月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 九月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十一月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 此年ハ閏月アリ

文政	五	壬午

正月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 三月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 四月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 五月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 六月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 七月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 八月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 九月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十一月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 此年ハ閏月アリ

文政	六	癸未

正月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 三月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 四月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 五月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 六月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 七月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 八月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 九月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十一月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 十二月廿日 昨夜ヨリ雨降リ
洪水 此年ハ閏月アリ

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

文政 七 甲申

三月雲州片山東次郎辰世刑次ニ於テ百余巻編集進
献白浪ノ者ドモ捕ハレ江戸及ビ諸国ニ於テ一味ノ
吹聴通用ス三月六日江戸ニ大風雨アリ大川橋ノ
ヘラ出シ永代橋ヲ流ス者中旬ヨリ諸国ニ大水アリ
殊ニ信州ニ於テ山津浪ノ如キ洪水ニテ人数ヲ出シ二千人ヲ討ス余処ヲ
益田領ニテ怪獣二疋ヤハラヲ空中ヨリ飛行ス

文政 八 乙酉

三月英国船ヨリ拂ノ船
医師建英一万石差平ス
命セラル 八月中旬諸国大雨洪水ニテ
ス 女川入内 十月琉球大飢饉人多死

文政 九 丙戌

三月下旬唐船漂着我漂流人五人ヲ護送 途ニ江
戸地震数度 四月上総ヲ群盗蜂起 五月ニハ中群盗リ
大ニ狄道ヲ襲抱屋敷ニ依テ切害 六月雲州松江領洪水東国大旱
炎暑 秋ニ江戸地震数度

文政 十 丁亥

二月ヨリ往年伊豆ニ最樹ス蒙ス七十七 三月ヨリ京都ヘ
格別ノ 徽典ヲ以テ軍ヲ率ヒ忠解セラレ玄京ヘ対面 大ニ
文恭ニ太政大臣 内府様従一位 ヨリ津軽越中ヲ逼塞
三月ヨリ青山下屋ヨリ一万石ヲ以豊ヨリ二千石松平筑後守千石
弟培 二月ヨリ高ヘ上ル 七百ヨリ
内 七百ヨリ 青山下ヘ 同二月ヨリ

文政　十一　戊子

冑大雪積ること丈余火自ら ず吹上の在山梁ら焼失 冑東海道洪水 五十年出羽ら新例 米拾五表弐進献 冑 六ら 東叡山凌雲院の住牌所焼失 九月西ら洪水中ら蝗ら り 十冑戌後ら ら大地震。

文政　十一　己丑

冑肥後熊本藩士歌討 三冑六ら江戸大火 南小一里余東西二十余町焼死人千九ら人ら救小屋九ヶ処ら 冑火除土手ヲ築セラル 七月一朱張通用始ル 十冑大坂ニ於テ切支丹宗ノ者六人磔ニ行ハル 六ら 冑ら吹上ら お撲上ら方丈陽乗真が信ら仕ら 上洛 六ら五代年阿系人系府中ら捨作ら土生ら玄碩ら収品し 掌人へお返ハ ら 在府ら処

天保　元　庚寅

冑 冑冬ら ら ら神田橋ら つ南戸深大和ら家来一揆為小人 冑日晦今日双方ら処 系大膳亮家来ら来ら 冑ら返ら 松数千度 ハ 者出ル 十冑六ら評定所ら門前戸ら 冑 山代伊勢ら陸系 十月六ら小堂 山代江戸ら国寺ニ石塔ヲ没妻化 評定所ら石塔ヲ没妻。

天保　二　辛卯

冑 台佐ニ百田ら ら 冑八丈為飢饉 四年 閑つ為ら ら為死衆 ら処 七月六ら孝合伊東ら服押上ら面陽ニ於テ多殺生 六ら江川太郎左ら 冑 七ら松浦ら 奴僕ニ ら 四時妻 ら処 七月六ら孝合伊東ら服押上ら面陽ニ於テ多殺生 六ら江川太郎左ら 冑六ら武州久良喜郡ニ古墳掘出ス 六ら 四年九月佐野和泉山奥供山祀典旧音ニ復ス。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

天保	三	壬辰

冒諱ヲ立方要水路掘渡ノ義伺出ル　　冒四ヶ年ヲ
冒五日把伊走負仕役一任ヲ以テ大納言ヨリ二任ヲ賜
冒七日水戸老公仕役二任ヲ賜ヒ冒ヶ年ヲ以テ
小納戸ヨリ奴ヲ金盗ム二由テ獄ニ
字嵐小僧次郎吉ヲ仕ヲ獄ヘ　冒十九ヶ日名次郎大夫
屋金三郎ヲ始メ　十九ヶ日ヲ以テ山田表ヘ面上ヲ吾妻郡ヲ水戸
領ヨリ出ル竜ニ帰ト雖ヲ及ハヽ詮ナク中自殺。

天保	四	癸巳

冒ヲ京都ヶ最樹院殿　勅額ヲ下
ヲ始メ　昨年堰ヲ切矢幼ヲ
ノ古ヶ村季又ヲ作堰浦風ト云ヘル
谷嵐山ニ感在ヲ建　十ヶ年ヲ以テ
蜂起江戸町ヘヲ救米ヲ賜フ施政ヲ町人共ヘ
サル。

天保	五	甲午

冒ヲ十ヶ日江戸大火ヲ救小屋多ヲ
民ヘヲ救米ヲ賜フ　冒ヶ月富士山大荒近国ヲ動　十八ヶ
ヨリ下奈良井村百姓吉田四郎左衛
上技ヲ以テ肥ヲ天草郡ヲ始メ
教上技ヲ以テ肥ヲ永代数五百石ヲ
方石ヲ下サレヲ勤ヲ以テ苗字帯刀ヲ免ヲ扶持
ヲ連伯ヲル。

天保	六	乙未

冒ヲ高　二九ヶ作後ヲ付細川越中ヲ亀井隠岐ヲ
十ヶ夏日大ヲ和堂妻ヲ家来井上ヲ事初
仙墓ヲ大地震　閏七月十ヶ日ヲ
五十回ヲ忌　十月ヶ日夏ヲ徒通用
始　十月忠崎ニ於テ唐人共乱妨ヲ
ナルヲヲ八ル。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

天保	七	丙申	二月晦日町奉行仕法改正　三月より頭取と称名改め田一松平右近将監上知被仰付候ニ付而ハ井上河内守へ松平大隅守金十万両上納被仰付候ニ付而ハ七月より仕法御取調ニ付而ハ松平周防守漢戸田采女正手配ニ而褒賞之事。
天保	八	丁酉	當將軍御所　内津ハ家茂ニ云　文恭ニ云　内臺処 二月十九日大坂大火町奉行跡部山城守任罪方大阪拮西陣居住平八郎格之助ニ而自殺ニ付名掩ル　罪ニ云　文恭ニ云　九ヶ所ニ移徙　十二月十九日代替ニ付赦令被仰渡事　是年ニ多判吹ニ。
天保	九	戊戌	是年西九月焼　三月水戸中納言斉昭公退隠被仰遣。
天保	十	己亥	三月京都市中ニ若男女ロケ七ケ一吋ニ躍出　九月三宅土佐守事　十月ニ尾州宗春公ニ於テ整屋作事ニ付テル町医師七英永寧是年　文恭ニ云　改大正。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

天保 庚子	十一	是年水戸ヨリ幕府ヘ系ヲ立ノ攻入ル。
天保 辛丑	十二	宵時 文恭公薨ス 諡ヲ弘道院殿ト称ス 是年水戸ヨリ幕府ヘ系ヲ立ノ攻入ル。

弘化 元 甲辰	弘化 二 乙巳
春二月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 三月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 四月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 閏四月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 五月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 六月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 七月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 八月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 九月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 十月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 十一月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。 十二月水戸領内代官 田中丸炎焼 言上ノ通リ 六月和蘭使節 参府 帰路 小倉ニ於テ 病死 仍テ 遺物 献上 由。	二月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 二月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 三月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 四月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 五月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 六月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 七月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 八月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 九月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 十月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 十一月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。 十二月異国船数艘薩摩領内ニ渡来シ 支配所ニ於テ 食料 薪水 等 与フ 唐大通詞 永代 徒士ニ 取立 宰予 参会 居中 要ス 於 長崎 改メ 揚屋 ヲ 牢舎 ニ 改テ 入 塾 居。

今上皇帝

弘化 三 丙午	弘化 四 丁未
閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス 閏五月小西屋利右衛門 孝天皇 崩御 仁 即位 ス 是月薩摩領内 琉球 ヘ 渡海 ノ 節 ハ 従来 ノ 通 ニ 相心得 ベキ 旨 申渡 ス	三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。 三月信州大地震 被害 ノ 田畑 二及ヒ 山崩川塞水火一時ニ至リ 死亡人 畜数ヲ 知ラス 四月水戸 ヘ 帝九君一格 為 お祓。

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用

嘉永 元 戊申	嘉永 二 己酉
二月六日晴天寒ノ為加賀ヨリ宝生安勧能 下谷根生二而西洋流炮術当	二月小金原ニ而狩 冒頭花利亜利亜ト称スル亜墨利加ノ人漂着 二月松
此ノ雑事ヲ記ス。	本ニ而築城ノ法 作事ヲ始メラル 九月十五日川ニ船橋ヲ
坊刻武江年表八巻今年	延年紀伊国屋佐兵衛並ニ去
	庚七年ニ二道者ト唱ヘ教ノ為 九月七日我が大松村表ヲ解
	仏法ヲ十三ヶ条ニ分ケ時ニ応シ国ニ依テ建ニ用
	仏法ヲ広ク弘ムル事其人ノ事 ヲ止ヘキヲ申上ル事ニ応ジ
	法ニ及ハス但シ是迄所持ノ外 物ヲ禁ゼラル上。

嘉永 三 庚戌	嘉永 四 辛亥
二月江戸大火 二月江戸大雨数十ヶ処ニ及ル 十月晦ノ夜九ツ半	去年六月入津唐 船ノ由ニ付ハ今年咸豊元
逃ヲ打ヲ捕ヲ士英ヲ申ス山百人町ヲ沢ニ泊ト改名除ル処ニ是	年ト改元ノ由ニ付ハ今年咸豊元年ニ当ル 西洋ノ暦数千
召捕ラルヽ人数ヶ処 府員七百 教ノ由 十月毒水戸宰相薨	八百五十一年ニ 延去町家宅民ノ救米下サル。
中納言 ヲ尾張宰相薨中納言	
道事ヲ営ル共ノ取扱ヲリ 是年阿蘭陀人ヨリ府	
ヲ一ヶ条伊勢大神宮ニ於テ異国 大河端ニ仮牙ラル 八百ヲ	
取ノ内陣ヲ戸ヲ句カラ我クヨシ。 勅許ノ処	

国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

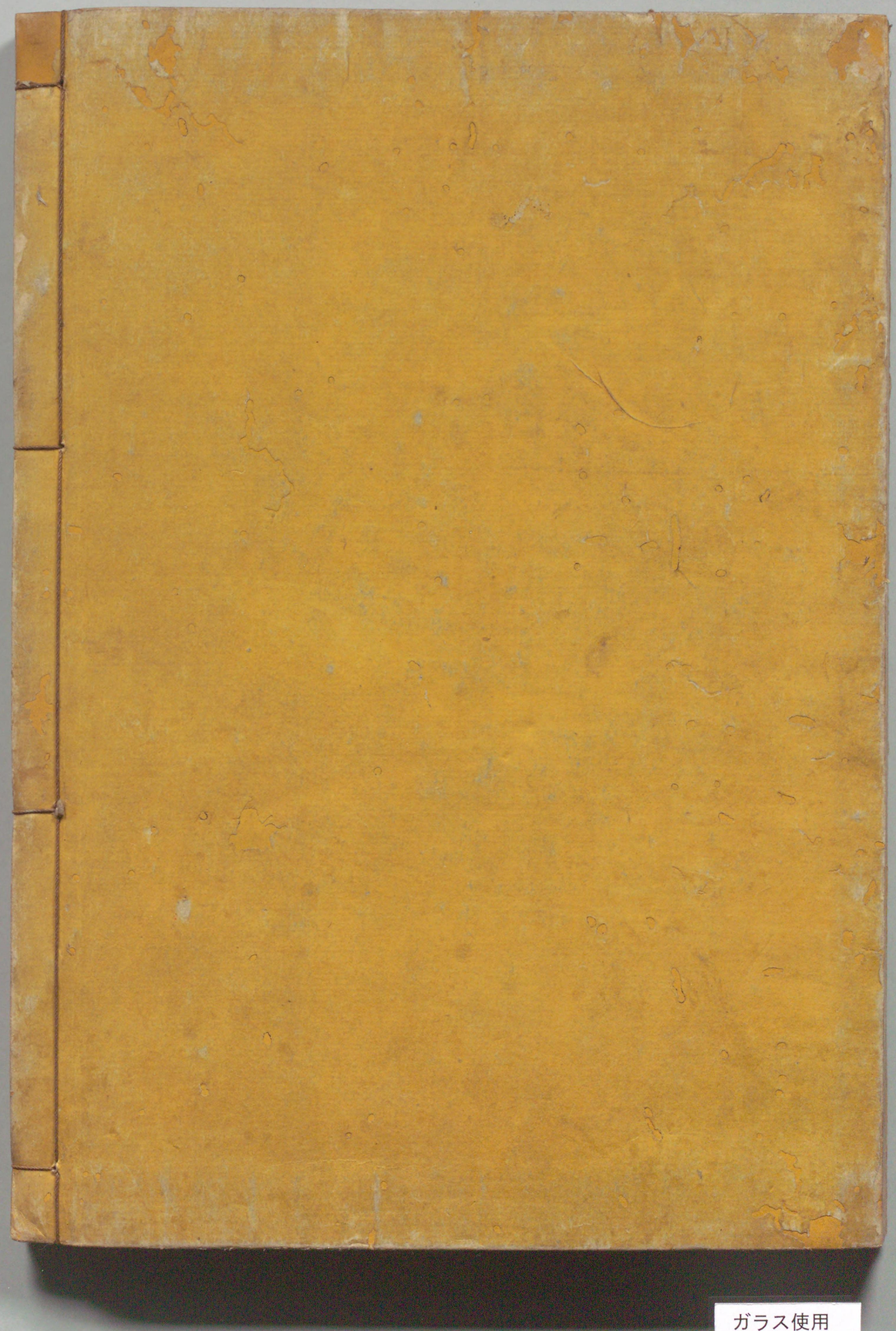
ガラス使用

特1000
29

嘉永四歳次辛亥十月六日成

国立国会図書館　御當家年歴記聞　2巻　特1000-29

ガラス使用



国立国会図書館　御當家年歴記聞 2巻 特1000-29

ガラス使用